

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28 年 10 月 28 日

### 【事業所概要【事業所記入】】

事業所番号	3471700264		
法人名	府中ツキ板有限会社		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	広島県府中市中須町1412-1		
	電話番号	0847-47-1006	
自己評価作成日	平成 28年 8月 30 日	評価結果市町村受理日	平成28年11月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

### 【外部評価機関概要【評価機関記入】】

評価機関名	一般社団法人 みらい
所在地	広島県福山市山手町1020番地3
訪問調査日	平成 28年 10 月 12 日

### 【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

田畑のある閑静な住宅街の一角にあり、近隣には寺・神社・病院もあり散策コースになっています。町内会の行事や児童の下校時の見守り隊への参加等で地域に溶け込んだ生活を心がけています。家庭的な雰囲気を大切にしながら入居者様の暮らしをサポートしていきたいと思っています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

中心街から少し入った住宅地の中にあるが、周辺には田畑もあり、長閑である。事業所の目の前には手入れの行き届いたお庭が素敵な神社があり、その前を散歩コースとされ、木々の色の移り変わりで季節感を味わう事ができ、とても良い環境である。ボランティアや中学生の体験学習などの受け入れも積極的にされていて、その中学生たちが企画されたお祭りが行われ、楽しい時間を持つことができ、利用者全員の笑顔が多く見られ元気をもたらしている。ケア面に於いても両ユニットの管理者、職員も明るく、一人ひとりに寄り添い、個々の思いやその人それぞれのペースに合わせてゆったりとしたケアに心掛けられ、一日一日を大切に支援されている。職員の定着率も良く利用者も安心である。また、今年度から家族会を開催し、より多くの家族の意見や要望を把握し、サービス向上につなげると共に家族との信頼関係をより深い物とし、両者で利用者を支え合い其の地で穏やかに過ごしてもらえよう取り組まれている。地域との関わりも、通学路の見守り隊に参加し、地域の一員として協力すると共に地域のいきいきサロンにも参加する事で地域の方々と触れ合う機会となり交流が図られている。医療面においても看護師が常駐している事と協力医療機関との連携が密にできている為、利用者、家族も安心である。開設十数年、今では地域に根付いた事業所となっている。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者に対して、「礼儀正しく」「言葉遣い」「笑顔」「信頼感」に配慮し、地域の中でその人らしく暮らしていける援助を心がけている。朝の申し送りで、職員が倫理綱領をいっせいに読み上げるようにしている。	毎朝の申し送り時に倫理綱領を読み上げると共に玄関の見え易い場所に事業所独自の理念を掲げ、常に振り返りながら実践する様取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、通学路の見守り隊をしている。月一のサロンには、職員2名が利用者2名を車で便乗し、参加して貰っている。	回覧版を基に地域行事(お祭り等)を把握し、見学されたり、近隣の地域サロンへの参加や、散歩時には挨拶を交わす等、顔見知りの関係に努め交流が深まる様取り組まれている。また、通学路の見守り隊にも協力し地域貢献にも繋げていると共にボランティアの受け入れや中学生の職場体験の受け入れ等も積極的されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月第4水曜日のケア会には、職員2名が必ず参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月の第2水曜日には、運営推進会議を開催し市の長寿支援課からは交代で出席して頂いている。	家族、利用者、町内会長、老人会長、民生委員、行政、包括等の参加の下、現状や行事等多岐にわたり報告し、立場の違う方々の意見を多く得、それらは真摯に受け止めサービスに活かしている。地域の各役員の方から情報も得られ有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議において、町内会・老人会・民生委員の方と町内の行事等を話し合っている。町内会にも加入し、回覧で情報をいち早く察知している。	疑問点や困難事例等がある場合は、出向いたり、電話等で相談している。又、運営推進会議への参加もあり、実情や取り組み等については理解してもらっている。会議の中でもアドバイスや情報提供を得ながら担当者との連携が図られる様務めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを作成し、身体拘束ゼロに向けて取り組んでいる。	基本しない方針である。外部から講師を招き研修もされ全職員理解されている。リスクが生じた場合は家族や職員間で話し合い工夫すると共に見守りを徹底し、抑圧感のない暮しができる様務められている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する資料や、マニュアルを配布し、職員の意識の徹底に努めている。虐待に関する講演も行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自発的に研修に参加し、話し合いの場を設け活用できるようできるだけ働きかけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に、契約に関する書類を読み上げ、家族に十分理解・納得して頂いた上で署名・捺印を頂いている。質問や意見も、積極的に取り入れている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。入所2ヶ月後に、施設に関する簡単なアンケートを実施している。	家族の訪問時、状況を報告する際、思いや要望等を把握し運営に反映させている。また、利用開始2ヶ月目にはアンケートを実施し気軽に意見が出せる機会を作っている。今年度からは家族会を年2回開催し、多くの意見の把握と連携強化に繋げていくよう取り組まれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月第4水曜日にはミーティングを開催し、管理者を初め職員全員の意見を反映している。	朝の申し送り時や日々のケアの中で聞く事もある。又、ユニットカンファレンスでも提案や意見等を聞き取り、それらの意見等は全体ミーティングで検討し反映させている。どんな些細な意見も見逃さず日々のケアに活かすよう取り組まれている。。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年9月の昇給時には、労働契約書を全員に配布し個々で確認して貰っている。賞与には、評価に応じて特別手当を増額している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修・管理者研修の申し込みを可能な限りしている。隣町で研修がある場合には、交通費等を支給している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営母体が同じであるひまわり新市との交流をできるだけ活発にし、行事がある時には交流するよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談を聞く機会を設け、傾聴している。帰宅願望がある場合には、特に気を付け本人の趣味や興味のある事を積極的に選んでして頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会に来られた方には、管理者・ケアマネが必ず対応するようにし、話す機会を設けている。電話での対応も頻繁に行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を、本人や家族から十分に聞き出す機会を設けている。他のサービスに関しても、助言している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常にアットホーム敵な雰囲気づくりをし、残存能力を生かした生活をするサポート役として徹している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族や本人の意見を常に尊重し、外出・外泊の希望があれば柔軟な対応をしている。面会に来られない場合には、電話での対応も重視している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の面会も頻繁に取り入れ本人が書いた手紙や葉書を郵送している。地域の祭り等の行事には、できる限り参加して貰っている。	友人の訪問もある。また、自分の思いを書かれた手紙を家族や友人に出されたり、希望で馴染みの場所へドライブしたり、昔利用していた美容院に行ったり、関係が長く継続出来る支援に努めると共に常に訪問し易い環境づくりにも取り組まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	合同で、季節の壁紙の製作をして貰っている。トイレ・洗面所が部屋に設置されていないので、洗面・歯磨き・手洗い等は職員の確認の全員揃ってして貰っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移動した場合も、情報は共有し、月一のケア会で本人の様子を確認している。訪問する事もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎朝、全員で体操をしている。拭き掃除をして頂き、スタンプを押すようにしている。字の上手な方は、葉書を書いて頂き郵送している。等、個々の特性を生かした取り組みをしている。	日々の会話の中や表情、行動から把握している。外出や食べ物等の希望が出る。また、化粧品が欲しいと言われる方もある。様々な場面で把握する様にしている。それらの思いは可能な限り対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や以前暮らしていた施設から、本人の情報を取得し、ケース記録に残している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の申し送りで、夜勤者が必ず経過報告をしている。介護日誌の記録を、個々に把握しながら確認し情報交換している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一のミーティング時に、カンファレンスの時間を30分設け、現状の把握・問題点等を全員で検討している。	基本情報やアセスメント、家族や本人の思いを基にミーティングやカンファレンスで職員の意見を取り入れ、担当者会議で検討し、本人本位の計画を作成している。定期的にモニタリングや見直しもされている。又、家族への説明と共に職員にも周知し、プレのない支援に努めている。。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	緊急連絡先・介護記録・健康チェック表・看護記録・処方箋・ケアプラン等と一綴りにし、常時確認できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々、気づいた点があれば職員間で話し合い、一点にとらわれず、多方面から対応し改善していつている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月一のケア会で、他の事業所や市の長寿支援課から情報を把握し、必要な点は回覧やミーティングで逐一報告するようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医をユニットごとに2名確保しているので、入所時には、必ず受診して貰う事になっている。その他の専門科受診については、職員が送迎・付き添いをしている	全員が協力医療機関であり、各ユニットで医療機関が異なり、毎日一人の往診となっている為急変時も安心である。基本全員が月2回の往診となっている。他科については家族対応ではあるが柔軟に支援している。訪問歯科支援もある。往診記録で家族にも適宜報告している。看護師も常駐し夜間等でも医師の指示が受けられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は、常勤と非常勤の2名が各ユニットに配置しており、介護職は気づきをいち早く看護職に伝えるよう日頃から心がけている。看護職とかかりつけ医の連携も十分に取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院前には、必ずカンファレンスの場を設けるようにしている。嘱託医の受診で緊急性がある場合には、すぐに紹介状を用意して貰い、入院の準備ができるようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化した場合のあり方についての説明をしている。かかりつけ医と看護師の連絡が常にできており、万が一の場合にもすぐに来ていただけるようになっている。	利用開始時、終末期に対する説明を行い、同意も得ている。医師との連携も確立されている。事業所にも看護師がいる為、急変にも対応出来る体制である。状況変化が起きた場合はその都度、家族の意向の確認をしながら、共に方針を共有し支援されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルをわかる場所に保管し、職員全員が把握できるようにしている。AEDの研修も受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行っている。防災台帳を作成し、町内の方々にも、協力を得るよう、運営推進会議等の機会に声かけをしている。	消防署指導、自主での訓練を年2回、夜間想定で実施されている。通報、初期消火、避難、搬送方法等の訓練となっている。近隣にもチラシを配布し参加が得られた。防災設備の点検も定期的にされている。また、運営推進会議でも協力のお願いをし、協力体制強化に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	挨拶を徹底し、命令・否定等の言葉遣いをしないよう常に気を配りながら利用者と接している。	居室に入る時は声かけ、入浴時には自尊心に気をつける等様々な場面でプライバシーを損ねない様周知している。気付いた時にはお互いに注意し合い尊厳を大切にした支援に努めると共に個々合わせた言葉かけや対応をす様取り組まれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	月一のサロンや、他事業所のイベントの際には、本人の意思を尊重し、少しでも多くの入所者が参加できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床の時間がまちまちなので、個々に合わせた食事の対応をしている。声かけはするが、無理強いせず部屋で過ごしてもらおう事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みに合わせた服装を選んで貰っている。出張の髪のカットサービスを全員に提供している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の食事携帯を把握し、嚥下機能の低下している入居者には、刻みやミキサー食で対応している。時に、ホットケーキやお団子等のおやつを利用者と一緒に手作りする事もある。	力量に応じテーブル拭きや下膳等してもらい、張りのある生活の確保に繋げている。又、身体状況に合わせた形態で食を大切に栄養バランスにも気をつけ、楽しみとなる様支援されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下機能が低下している入居者には、とろみをつけるよう心掛けている。減塩食の人には、業者に頼んで用意して貰う様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後1日3回の歯磨き、口腔ケアを心がけている。入れ歯の洗浄も個々に合わせて徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの場所が分かるように、動線のテープを貼っている。個々のパターンを把握し、トイレでの排泄や自立に向けた声かけをしている。	個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導され、立位、座位で機能維持に繋げると共に気持ち良く排泄できる支援に努められている。自立の方も数名おられ、プライバシーの配慮しながら見守りで対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含んだ物の摂取に心がけている。日常、なるべく体を動かすように工夫する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週二回を基本とし、個々の希望に合わせてくつろいだ入浴ができるよう支援している。体調不良の場合には、清拭や足浴で対応している。	回数、時間帯は基本決めて入るが、希望に沿った柔軟な支援をしている。体調不良や入浴拒否の場合は次の日に声かけし、様々な工夫しながら清潔保持に努めている。湯温等の希望も聞き楽しく入浴してもらえる様務めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者本人の希望に沿うよう、時間を見ながら声かけをしている。夜だけでなく、朝や昼も、眠くになったら部屋で休まれるように誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録に、個別の処方箋を綴っており、病状の変化に適宜に対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	教職の経験のある入居者にリーダーになって貰ったり、歌の上手な人にはカラオケで中心に歌って貰ったりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月一のサロンには、順番で参加できるように心がけている。春はお花見、秋は紅葉狩りへと、バスで出かけるようにしている。	年間行事として春のお花見、秋の紅葉狩りはバスで出かけられ、楽しみとなっている。又地域のサロンに参加したり、事業所の目の前の神社周辺は危険個所もなく天候の良い日は日々散歩している。希望で買い物、誕生日には外食等に出かけられ、楽しみごとや気分転換、五感刺激となる様支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かける時に、管理できる入居者はしてもらっているが、基本的には入居時と定期的に預り金として金庫で保管している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望する場合には、電話をかけている。家族からの電話も、特別な場合を除いてとり継いでいる。手紙も本人が書いたものは責任もって職員がポストに投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全室個室なので、本人の希望を聞いて部屋で休んで貰う事もある。移動の際に障害物がなく、自由に歩行できるようにしている。ユニット間の行き来も、本人が希望するならばして貰っている。	玄関には季節を感じるお花が生けられ、職場体験の中学生が作成した作品やボランティアの人の作品も多く飾られている。リビングの壁には季節にあった作品もある。また、畳スペースやソファもあり、ゆったりと出来る場所の確保ができています。不快な匂いもなく気持ちよく寛げる共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の時には一人ずつ椅子に腰かけて貰っているが、3人掛けのソファーには仲良く並んでテレビを見たり話をしたりして貰っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の好みい合わせて部屋作りをして貰っている。家族が面会に来られた時は、基本部屋にお通しするので、家族も一緒にくつろげる空間作り心がけている。	テレビ、寝具などを持ち込まれ、家族との思い出の写真やお花も飾られ、今まで生活されていたスタイルに合わせ住みやすい環境で落ち着いて過ごせる様工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの残存能力を生かし、できるだけ手を加えず自分で仕上げるよう、サポートに徹している。出来たときには、おおげさな位に褒めている。		

V. サービスの成果に関する項目【アウトカム項目】

項目		取り組みの成果(該当するものに○印)		項目		取り組みの成果(該当するものに○印)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼすべての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼすべての家族と
			②利用者の2/3くらい				②家族の2/3くらい
			③利用者の1/3くらい				③家族の1/3くらい
			④ほとんど掴んでいない				④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に一度程度ある				②数日に1回
			③たまにある			○	③たまに
			④ほとんどない				④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼすべての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②利用者の2/3くらいが				②少しずつ増えている
			③利用者の1/3くらいが				③あまり増えていない
			④ほとんどない				④全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き活きた表情や姿が見られている	○	①ほぼすべての利用者が	66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②利用者の2/3くらいが				②職員の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③職員の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
60	利用者は戸外の行きたい所へでかけている		①ほぼすべての利用者が	67	職員から見て利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが				②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼすべての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②利用者の2/3くらいが				②家族等の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼすべての利用者が				
			②利用者の2/3くらいが				
			③利用者の1/3くらいが				
			④ほとんどない				

事業所名:グループホームひまわり

作成日:平成28年11月8日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修に行く者が偏りがちである。</li> <li>回覧で復命書を配布しても全員に浸透していない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年に最低1回は外部から講師を派遣し、1時間、1時間半の研修を行なう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひまわり新市で1年間研修を行なった時の講師に来年の年明け早々に依頼してみる。</li> </ul>	1年
2	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>福利厚生の中では職員に十分な満足感ややりがいを与えられていない。</li> <li>職員一人一人話す機会が得られていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>処遇改善手当を一律でなく能力に応じて増額する。</li> <li>職業性ストレス簡易調査を全員に配布し、集計を出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>来年4月より12000円から15000円の幅を付ける。</li> <li>12月初めの給料明細書に同封し回収する予定。</li> </ul>	5ヶ月
3	13	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修が終了しても管理者になりたがらない者が多いので、同じ者が何年も続けている。</li> <li>介護福祉士が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年に1名ずつ必ず実践者研修と管理者研修に行かせる。</li> <li>介護福祉士の資格を一名ずつでも取得してもらおう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>来年1月の福山市での実践者研修は申し込み済みで抽選結果待ち。</li> <li>来年の受験者に対して交通費等の支給を検討中。</li> </ul>	1年
4	14	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひまわり新市の職員と接する機会が殆どない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事等を通じて、お互いの状況を把握し合い、意見を出せる場を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年12月に初めて合同の忘年会を企画している。</li> </ul>	2ヶ月
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。